

## 19 全国の神楽と中国地方の神楽 —その多様性と共通性—

【全2回】／開催方法：対面併用

なか の あい か  
**中野 秋鹿**

中村元記念館  
東洋思想文化研究所  
研究員



受講料 一般料金：¥4,200 早割価格：¥3,200(納入期限：8月25日)

【日程・時間】【全2回】

8月30日(日) 12:30~14:00/14:10~15:40

■受講に必要なもの

[テキスト] レジューメ配布

神楽の語源は、神が坐す場所「神坐」が縮まったものという説が有力です。「神楽」という言葉を厳密に定義するのは難しいですが、神坐に神々を招き、歌舞音曲を捧げる儀式であり芸能であると言えます。

宮中で行われた「御神楽」に対し、神社などで行われる民間の神楽は「里神楽」と呼ばれます。里神楽は全国各地に分布しており、その広域性と多様性は驚くべきものです。

神社で巫女が鈴などを採って舞う巫女舞、放下芸（曲芸）と獅子舞を組み合わせた伊勢大神楽から派生した全国各地の獅子舞、東北の山伏神楽などにみられる権現様と呼ばれる獅子頭を用いた権現舞、南信の霜月神楽や奥三河の花祭りなど湯立を中心とする神楽、そしてこれまで本講座で紹介してきた素面の採物舞と着面の神楽能、舞を伴わない奏楽や祭文読誦のみの神楽まで、実に様々な里神楽が、全国の何千もの団体や個人によって今も伝承されているのです。

しかし、それら多様な里神楽の一つ一つを見ていくと、遠く離れた地域の神楽同士であっても、色々な共通する要素があることが見えてきます。

今回の講座はこれまでより視野を広げて、全国各地の里神楽の特色と共通性について、中国地方の神楽との比較の観点も交えて解説します。

実際に神楽を見に行きたい！という方に向けた神楽情報もご提供しますので、講座を受けられたあとは、ぜひ全国各地の神楽へ足を運んでみてください。